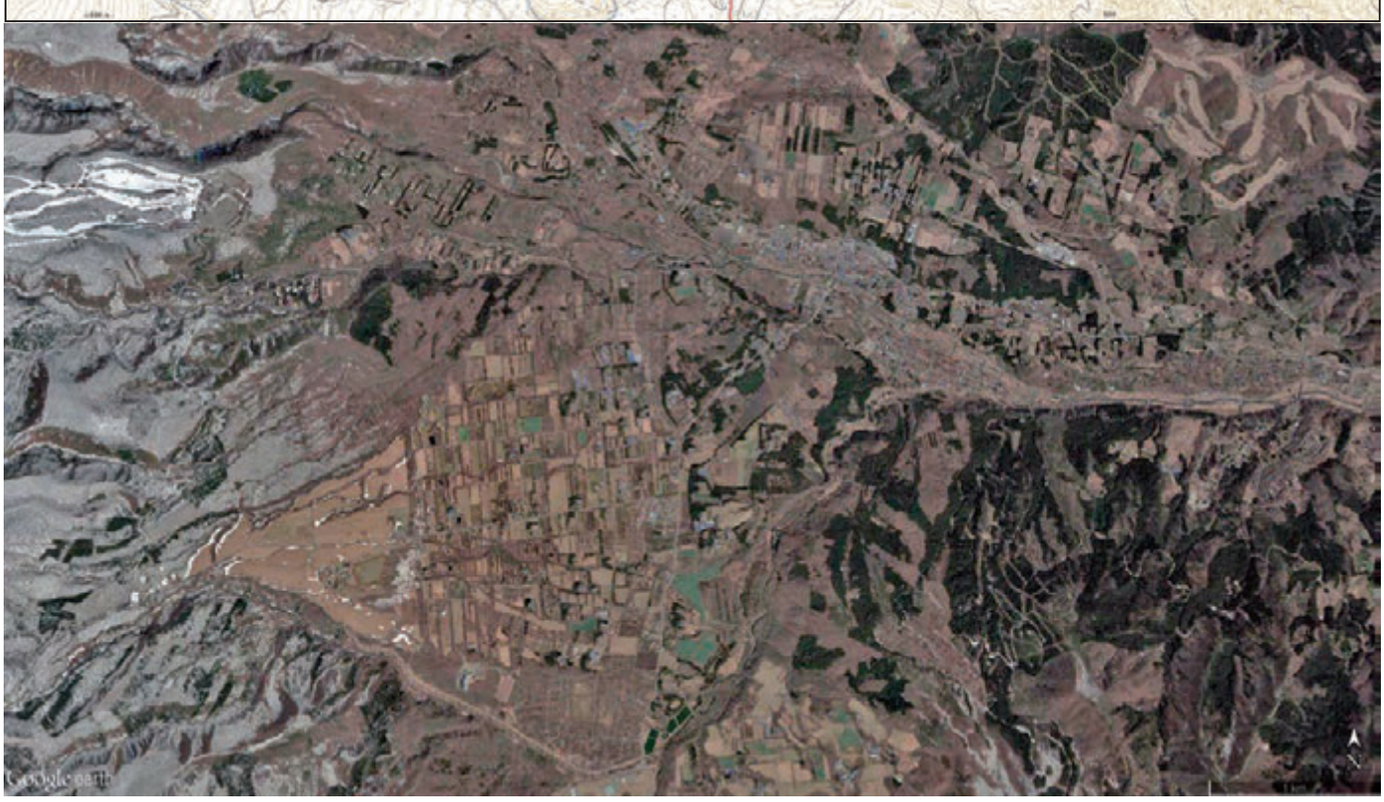
# 2．遠刈田ジオサイト



蔵王連峰と遠刈田温泉街
（松川沿いに広がる平坦な河岸段丘面に立地する）

こけし集落付近から見た遠刈田温泉街
（温泉街の背後には遠刈田段丘面の高台<権現山>がある）

遠刈田温泉（共同浴場「神の湯」）
（江戸時代には蔵王参詣の拠点として発展した）

七日原扇状地
（屏風岳の活動が美しい扇状地地形を造り出した）

七日原扇状地（蔵王酪農センター）
（地形や土壌を活かした酪農や高原野菜の栽培が盛ん）

新地こけし集落
（江戸時代から続く木地師の集落。遠刈田こけし発祥の地）

みやぎ蔵王こけし館
（伝統こけしの展示と歴史の紹介、製作実演などを行なう）

刈田嶺神社（蔵王大権現）里宮
（蔵王参詣の出発地として多くの参拝者を迎えてきた）

刈田嶺神社（蔵王大権現）里宮
（刈田岳山頂の奥宮との季節遷座の伝統を守る）

奉納絵馬「敬明講図」（刈田嶺神社蔵）
（明治時代の蔵王参詣の様子を視覚的に伝える貴重な資料）

権現山の古碑群
（刈田嶺神社の前身である「金峰山蔵王寺岳之坊」と刻む）

岩崎山金山跡（籠山）
（金山跡の岩山の景観は遠刈田温泉の景勝地に数えられた）

岩崎山金山跡（籠山）
（鉱床は蔵王火山以前の第三紀の火山活動で形成された）

遠刈田製鉄所高炉跡
（国内で唯一現存する明治時代の高炉跡は近代化の足跡）

蔵王野鳥の森（ことりはうす）
（山麓の自然に触れ、川遊びやネイチャークラフトを体験）

# ジオサイトカルテ

サイト番号②

| | |
|---|---|
| 名称 | 遠刈田ジオサイト |
| テーマ | 山の暮らしと温泉 ―火山地形と高原の産業― |
| ジオサイトの概要・説明 | 蔵王火山東麓の遠刈田温泉と七日原高原を中心とする遠刈田ジオサイトは、蔵王火山と山麓の人々の営みが接するエリアである。山麓を流れる松川の源流である清流「澄川」と硫黄が混流する「濁川」は火山山麓の自然環境を象徴し、二つの川が運んだ土砂は遠刈田地区に二段の段丘（平坦な地形）を形成している。また、南蔵王「屏風岳」の噴火によって、七日原に美しい扇状地地形が形成された。大地の恵みの代表とも言える温泉が湧き出す遠刈田では、段丘面上に温泉街が形成され、江戸時代には蔵王参詣の拠点として、近代以降は蔵王の山岳観光の拠点として大いに賑わってきた。また、蔵王山麓の豊かな森林は古くから木地師たちの活躍の舞台となり、開拓の進んだ現在は酪農や高原野菜の栽培がさかんである。<br>蔵王火山の活動が山麓に作り出した火山地形と、災害の脅威にさらされながらもたくましく生き、大地の恵みを活かして独自の文化を作り出した人びとの営みを感じることができるだろう。温泉や高原の観光と合わせて楽しみたい。 |

ジオポイント

| | 名称 | 概要 | 分類 |
|---|---|---|---|
| 1 | 遠刈田温泉 | 慶長6年（1601年）発見と伝わり、江戸時代には蔵王参詣の拠点として発展。近代以降は登山やスキー、山岳観光の拠点として賑わいを見せている。 | B・D・G |
| 2 | 七日原扇状地 | 屏風岳の噴火による火山泥流や土石流が作り出した美しい扇状地地形。表層は蔵王火山の火山灰由来のクロボク土に覆われ、高原野菜の栽培が盛んである。 | A・E・I |
| 3 | 蔵王酪農センター（ふれあい牧場ハートランド） | 七日原扇状地の高原で牛やヤギを飼育し、蔵王チーズ等の乳製品を生産。バター作りなど各種体験や、牧場で動物とのふれあいを楽しむことができる。 | E・I |
| 4 | 権現山と遠刈田段丘 | 刈田嶺神社裏手の段丘崖を登ると湯神神社などがあり、温泉街と蔵王山を一望することができる。森林の中を行く遊歩道は自然観察にも良い。 | C |
| 5 | 岩崎山金山跡（籠山） | 蔵王火山ができる以前の火山活動で形成された鉱床。江戸時代に伊達政宗の支配下で採掘され、仙台城築城の資金になったとも言われている。 | D |
| 6 | 刈田嶺神社（蔵王大権現）里宮 | 江戸時代に流行した蔵王御山詣りの出発地として多くの参拝者を迎え、遠刈田温泉の隆盛を支えた。明治時代の御山詣りを描く「敬名講図」が奉納されている。 | G |
| 7 | 新地こけし集落 | 江戸時代から続く木地師の集落で、遠刈田こけし発祥の地としても知られる。集落内には木地師が信仰する山の神や惟喬親王を祀る神社がある。 | H |
| 8 | みやぎ蔵王こけし館 | 宮城伝統こけしの歴史やコレクションを紹介する展示館。こけし館から遊歩道を歩いて段丘崖を登ると、新地こけし集落へ行くことができる。 | H |
| 9 | 北原尾開拓地* | 太平洋戦争の激戦地となったパラオからの引揚者が切り開いた「北のパラオ」。青麻山の西麓に広がる酪農地帯からは、蔵王連峰と七日原扇状地を一望できる。 | E・I |
| 10 | 澄川* | 蔵王火山に源を発する松川上流部の清流「澄川」と、硫黄が混流する酸性の「濁川」という対照的な二つの川。澄川は動植物を育み、用水としても利用されている。 | C |
| 11 | 濁川* | 蔵王火山に源を発する松川上流部の清流「澄川」と、硫黄が混流する酸性の「濁川」という対照的な二つの川。火山活動に伴い濁川は山麓に被害をもたらした。 | C |
| 12 | 鬼石原扇状地* | 五色岳の噴火による火山泥流や土石流が作り出した小規模な扇状地地形。「鬼石原」の地名は巨礫が多いことに由来するのかもしれない。 | A |
| 13 | 蔵王野鳥の森*（ことりはうす） | 蔵王火山の形成史や蔵王の動植物を紹介する展示館と、自然観察のできる野鳥の森からなる。澄川での川遊びや、ネイチャークラフト体験などができる。 | C・J |
| 14 | 土浮山の露頭* | 蔵王火山から噴出した火山灰が堆積した地層の観察地点。山頂付近で見られるダイナミックな火山活動の痕跡との違いや、山麓部への影響を知ることができる。 | F |
| 15 | 冷水堂の清水*（冷泉堂） | 蔵王エコーライン入口近くの清水原にある湧水地で、遠刈田地区の水源となっている。蔵王の修験者や御山詣りの人々もここで喉の渇きを癒したのだろう。 | D |
| 16 | わさび沢湧水* | 烏帽子岳東麓にある湧水地。蔵王野鳥の森内にあり、散策コースを歩きながら太平洋の眺望や自然観察、澄川での沢遊びができる。 | D |
| 17 | 遠刈田製鉄所高炉跡 | 明治41年に完成するも計画中止により一度も稼動しないまま移設され、耐火煉瓦で造られた基礎だけが残る。日本の近代化を伝える産業遺産である。 | D |
| 18 | 土浮山鉱山*（ベントナイト採掘場） | 蔵王火山ができる以前の火山活動で形成された粘土鉱床で、露天掘りで採掘して工業用などに利用。採掘場内では蔵王火山による土石流の地層も見られる。 | B・D |
| 19 | | | |
| 20 | | | |
| 21 | | | |
| 22 | | | |

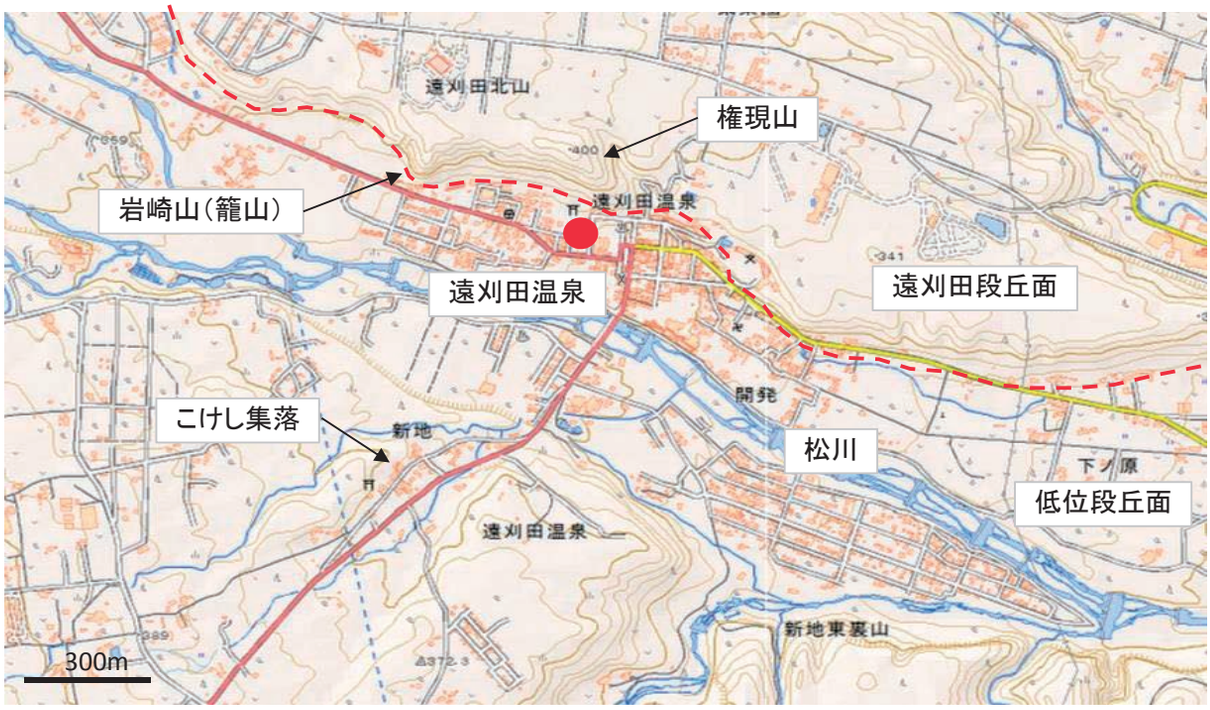
＊：調査予定地

# 遠刈田ジオサイト ジオポイントカルテ

サイト番号：②－１

| | | | |
|---|---|---|---|
| 名　　称 | 遠刈田温泉 | 所　在　地 | 蔵王町遠刈田温泉 |
| 管　理　者 | ― | 管理者連絡先 | ― |
| テ　ー　マ | 【遠刈田ジオサイト】山の暮らしと温泉―火山地形と高原の産業―<br>Ｂ．蔵王火山の活動前史／Ｄ．大地の恵みⅠ―温泉・水・鉱物―／Ｇ．信仰と祈り | | |
| サイトの説明 | 慶長6年（1601年）に大沼勘十郎が岩崎山金山の麓に湧き出す温泉を発見し、鉱夫の疲れを癒したのが始まりである。勘十郎は岩崎山から現在の遠刈田温泉にお湯を引き込み、元和４年（1618年）に浴場として整備した。その後、温泉宿も増えて江戸時代を通じて白石城主片倉家の湯治場として繁盛した。江戸時代後期に庶民の蔵王参詣が流行すると、出発点の蔵王寺嶽之坊（現在の刈田嶺神社里宮）が立地した遠刈田温泉は大いに賑わった。近代には首都圏の保養地としての人気も高まり、登山やスキーと言ったレジャーの拠点としての利用が増えた。昭和37年には蔵王エコーラインが開通し、県境を跨いだ山岳観光の拠点として現在に至る。<br>遠刈田温泉の泉質はナトリウム・カルシウム・硫酸塩・塩化物泉で、神経痛やリウマチ、胃腸病、婦人病、慢性皮膚病などに効能があるとされている。温泉の効能にちなんだ「うなぎとかにの伝説」も生まれた。蔵王火山がもたらす恵みの代表格とも言える遠刈田温泉は、時代を通じて人々に癒しを提供し、また地域の経済も支えている。<br>温泉街には共同浴場を中心に現在も多くの湯治客を迎え入れる旅館や土産物店、飲食店、こけし工房などが軒を連ね、街並みの散策も楽しい。温泉街の一角には古くから遠刈田温泉の発展を見守ってきた刈田嶺神社（里宮）があり、神社裏手の権現山には、万病を癒す霊湯にちなんで建立された湯神（ゆのかみ）神社がある。刈田嶺神社から権現山を経て岩崎山金山跡のある遠刈田公園へ至る散策路が整備されており、温泉街の散策と合わせて手軽に森林浴と蔵王の眺望を楽しむことができる。 | | |
| ジオ要素 | ・澄川に代表される森林地帯の土壌でろ過されて澄んだ水とは対照的に、蔵王山麓には泉質のバリエーションに富んだ温泉が多数ある。これは、濁川でみた火山としての蔵王の姿であり、活火山として今もなお、活動している大地の恵み「温泉」を楽しむことができる。<br>・蔵王火山を中心とした信仰の歴史、豊かな森林資源から生まれた「こけし」、大地を敬い活用してきた「人びとの暮らし」を理解できる。 | | |
| 話すポイント | ◆ウナギとカニの伝説<br>ウナギとカニの不動滝の主争いと温泉の効能が結びついた説話で、豊かな水、澄川、三階滝、不動滝、またぎと美しい女性が登場する。不動滝の大うなぎが三階滝の大ガニとの戦いに敗れ、切られた尾が流れついたので遠刈田の湯は足腰の病に効くといわれている。<br>◆特産品<br>乳製品や高原大根、こけしなどの特産品とジオの関係について理解してもらう。<br>◆温泉の歴史<br>江戸時代に発見され、片倉家の湯治場として整備された。江戸時代後期には御山詣りが流行し蔵王参詣の拠点になり、近代はレジャーや山岳観光の拠点となっている。<br>東の湯（現在の公共浴場「寿湯」）は享保16年9月7日の大地震で湧出し、寛保元年に曲竹村の我妻四郎右衛門が白石城主に願い出て浴場として整備した。 | | |
| 注意すべき点 | ・遠刈田温泉の発祥について、岩崎山の金を掘って財を成した金売橘次が霊泉を発見したのが始まりとする伝説もある。伝説の域を出ないが、ここでも温泉と金山が結びついている。 | | |
| 施設、案内板等の整備状況 | ・公共浴場「神の湯」前の広場には無料の足湯や観光案内所が併設してあり朝市も開かれる。<br>・神の湯東側に町営駐車場（60分まで無料）、西側に共同無料駐車場がある。 | | |
| 疑　問　点 | ・泉質のバリエーションはおよそ何種類になるか？ | | |
| 提　　案 | ・温泉の歴史や泉質の種類、流出経路など、温泉とジオとの関わりに関する基礎資料の整理をする必要がある。<br>・昔の絵地図や写真との対比、古い遺構の分布確認によって温泉街の見どころを整理し、案内できるようにする。<br>・温泉街の町並みの一体感を創出したり、商店街や町全体でのサービス向上を図ると良い。<br>・温泉街や周辺の散策コースなどと合わせ、滞在型のツアーの拠点とする工夫が必要である。<br>・火山防災も含め、地元住民とともにジオへの理解を深め、協力体制を構築しながら活動を展開することが必要である。<br>・神社脇の源泉で温泉卵を作ることができる（所要約40分）ので、周辺の散策と合わせて楽しめるようにしてはどうか（温泉卵は源兵衛・大忠・大沼旅館でも提供している）。 | | |

マップ



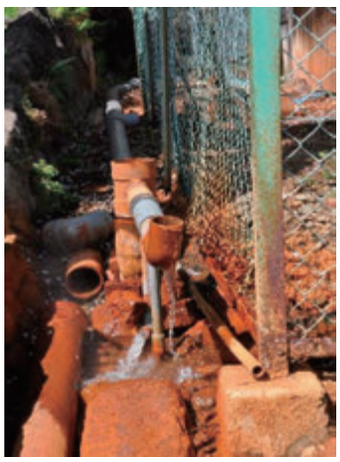

------ 段丘崖（段差）　●:共同浴場「神の湯」

代表的な写真

共同浴場「神の湯」（左側に足湯と観光案内所）

遠刈田温泉（権現山・古峯神社付近から）

遠刈田温泉（遠刈田小学校付近から）



湧出する源泉
（神の湯裏手の源泉井戸）

開湯400年記念看板
（刈田嶺神社裏手）

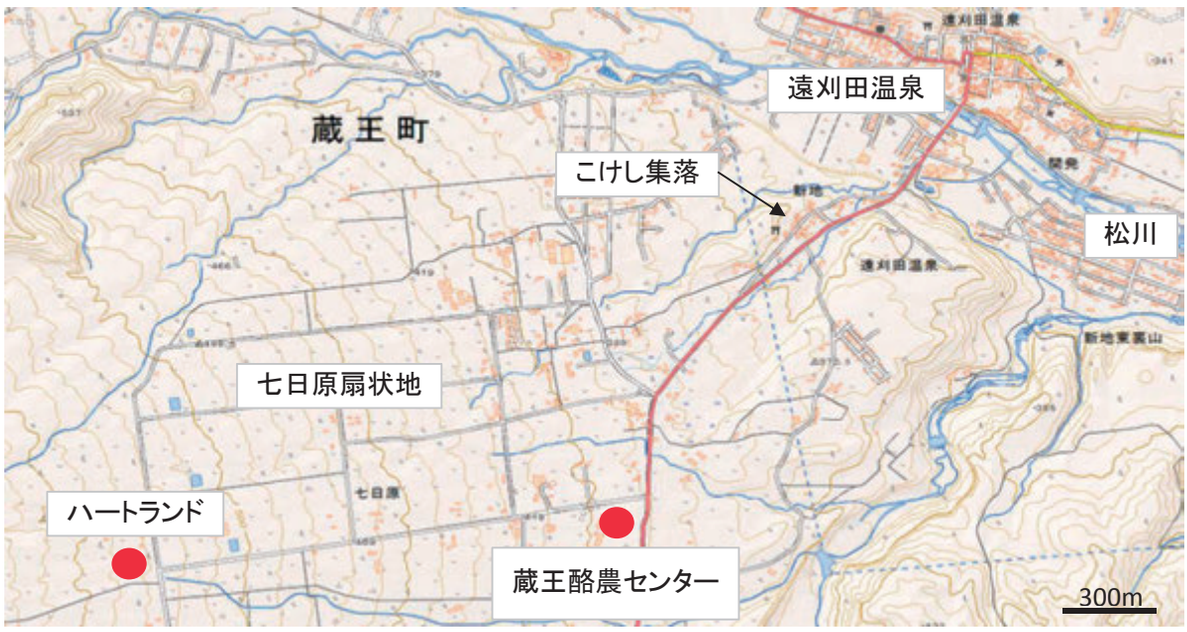
遠刈田温泉（新地こけし集落付近から）

# 遠刈田ジオサイト ジオポイントカルテ

サイト番号：②－２・３

| | | | |
|---|---|---|---|
| 名　　称 | 七日原扇状地・蔵王酪農センター | 所　在　地 | 蔵王町遠刈田温泉七日原 |
| 管　理　者 | 蔵王酪農センター ほか | 管理者連絡先 | TEL：0224-34-3311<br>FAX：0224-34-3313 |
| テ　ー　マ | 【遠刈田ジオサイト】山の暮らしと温泉―火山地形と高原の産業―<br>Ａ．蔵王火山の活動史／Ｅ．大地の恵みⅡ―地形と土壌―／Ｉ．景勝地 | | |
| サイトの説明 | 蔵王火山の噴火を元とする火山泥流や土石流の堆積によりできた地形で、同じく蔵王火山から噴出した火山灰に由来するクロボク土壌が広がっている。なだらかな傾斜を持つ扇状地の地形を利用した牧場や、根菜類の栽培に適した水はけの良いクロボク土壌を利用した高原野菜の栽培が盛んである。牛乳やチーズといった乳製品や高原大根など多くの特産物を生み出し、例年行なわれる大根狩りは秋の風物詩となっている。避暑地としても人気が高く、観光牧場や飲食店、農産物直売所などは週末に賑わいを見せている。また、扇状地の地下にはミネラルを含んだ良質な地下水が流れ、その湧水を利用した豆腐作りも行われている。<br>江戸時代には白石城主の片倉家が軍馬の生産を行ってきた。「七日原」の地名は、７日かけてようやく周ることのできる広大な土地であったことに由来すると言われている。明治25年には鬼石原、清水原、七日原の広大な土地を利用した早川牧場が創業し、高冷地農業・植林事業などを展開した。当初乳牛を飼育したが販路が振るわず戦前までに荒廃したようである。戦後は入植者による開墾が行われて昭和39年には蔵王酪農電化センター（現在の蔵王酪農センター）が開設された。農耕地の開墾とともにクロボク土が蔵王おろしの強風で飛ばされるのを防ぐ目的で防風林が植えられ、現在の景観を作り出した。また、クロボク土は水はけが良く根菜類の栽培に適したが、栄養分は極端に少ない土壌のため、畑として利用できるまでには時間をかけた土づくりが必要であった。このように様々な試行錯誤の結果として、現在の七日原の人々の暮らしと土地利用がある。<br>なお、七日原扇状地の南東側にある青麻山南西麓の北原尾地区は、パラオからの引揚者によって戦後に拓かれた開拓地で、酪農が盛んである。北原尾開拓地からは蔵王連峰と七日原扇状地の全景を望むことができ、美しい高原の景観を楽しむことができる。 | | |
| ジオ要素 | ・火山灰を起源としたクロボク土が豊かな恵みをもたらしている。なぜここでは美味しい作物が採れるのかを説明する（気候、クロボク土の性質、土づくり）。<br>・火山灰起源のクロボク土は乾燥すると軽く風で吹き飛ばされやすいため、防風林で防いでいる。<br>・秋山沢周辺の火口跡を起源とする堆積物が、典型的な扇状地地形を作り出した様子を外から（北原尾）、中から（ハートランド）観察できる。<br>・不忘山、屏風岳などを一望でき、火山活動と地形の形成史について学ぶことができる。<br>・蔵王火山の恵みとして、高原野菜、果樹、乳製品（チーズ、牛乳）を食したり、チーズ・アイス・バター作りなどが体験できる。<br>・蔵王の湧水を利用した豆腐製造（七日原：はらから工場、遠刈田温泉：大本豆腐店、はせがわ屋）が行なわれている。 | | |
| 話すポイント | ◆扇状地の成因<br>火山の噴出物などが土石流により堆積しできた地形。その上に火山灰等が堆積し、水はけのよい黒ボク土を形成し根菜類の栽培に適している。<br>◆開拓の歴史<br>江戸時代に仙台藩片倉家が軍馬の生産を行っていた。クロボク土そのものには栄養分が無いので、野菜の栽培が成功するまでには長い時間をかけた土づくりがあった。<br>◆名前の由来<br>７日かけてようやく周ることの出来る広大な土地であったため「七日原」と名前がついたと言う。<br>◆現在の利用<br>牧場や畑としての利用が多い。酪農センターやハートランドでは、牛やヤギを飼育し、蔵王チーズ等の乳製品を生産している。土壌の特長を活かした高原大根の栽培が盛んである。 | | |
| 注意すべき点 | ・乾燥したクロボク土は目に入ると取れにくく痛いため、風の強いときには土埃に注意する。<br>・牧場地は道幅が狭く、大型の農機も行き来するため駐車場所等に留意する。 | | |
| 施設、案内板等の整備状況 | ・県道白石上山線、国道457号線沿いにハートランド、チーズ工場の案内看板がある。<br>・国道457号線沿いの秋山沢に公衆トイレと駐車場、ハートランド、チーズ工場も広い駐車場あり。 | | |
| 疑　問　点 | ・扇状地内の地盤がどのように構成されているか。⇒ 秋山沢などの谷底を泥流堆積物（安山岩亜角礫など）が覆って扇状地形を形成し、その上を厚さ４ｍの火山灰層（上部50cmがクロボク層）が覆う。<br>・黒ボク土は七日原以外にもあるのか。⇒ 青麻山東麓の曲竹地区や円田盆地周辺の塩沢・東根地区などの丘陵地にも黒ボク土が見られ、里芋や蒟蒻芋の栽培が盛んである。 | | |
| 提　　案 | ・扇状地の立体模型があると説明しやすい。<br>・酪農センターやハートランドに遊びに来た人に関心を持ってもらう枠組みを考える。<br>・酪農センター様々な体験企画があるので、それらとタイアップできると良い。<br>・酪農センターはお土産・食の拠点として重要。また、チーズ・バター作りなどで調理体験の体制が整っており、ジオチッキンなどでの協力が得やすいのではないか。⇒例：「七日原高原野菜の火山扇状地カレー」、「七日原クロボクティラミス（下部は火山泥流を模してゴロゴロした何かが入っている）」、「澄川・濁川カクテル」（酸性河川だから酸っぱい？ヨーグルト系？森林を流れる澄川はミントで爽やかさを演出？）など | | |

マップ

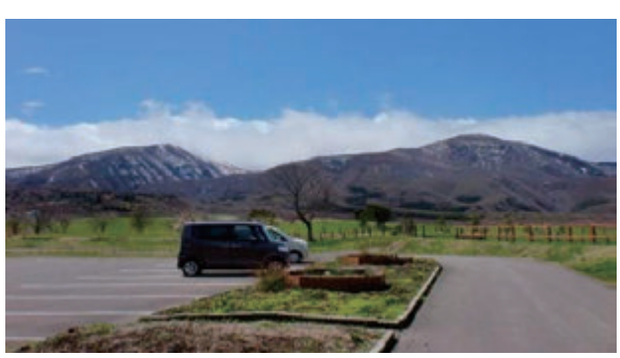



代表的な写真

北原尾開拓地から見た七日原扇状地

権現山から見た遠刈田温泉街と七日原扇状地

ハートランドでは牛やヤギを飼育



広い駐車スペース

チーズ等の乳製品を販売

## 遠刈田ジオサイト ジオポイントカルテ

サイト番号：②－４

| | | | |
|---|---|---|---|
| 名　　称 | 権現山と遠刈田段丘 | 所　在　地 | 蔵王町遠刈田温泉遠刈田北山 |
| 管　理　者 | － | 管理者連絡先 | － |
| テ　ー　マ | 【遠刈田ジオサイト】山の暮らしと温泉―火山地形と高原の産業―<br>Ｃ．松川と流域の地形 | | |
| サイトの説明 | 権現山と通称される遠刈田温泉北側の高台には、湯神(ゆのかみ)神社、愛宕神社、古峯(こばはら)神社が祀られている。<br>湯神神社は元禄８年（1695年）に遠刈田温泉の湯守（源泉の管理人）であった大沼久兵衛が四十八戸の住民とともに「蔵王湯神」の石碑を建立したのが始まりと伝えられている。以来、湯神神社の祭日には毎年「湯神祭り」が行なわれてきた。現在は祭日（毎年７月の土用の丑の日）にあわせて遠刈田温泉旅館組合による「お湯かけ祭り」が行なわれている。<br>愛宕神社、古峯神社はいずれも火伏せ・防火の神様として信仰されている。遠刈田温泉は明治中期と昭和初期の２回、大火に襲われた歴史があることから、地域では古峯神社の神様を「こばはらさん」と呼んで信仰している。古峯神社のある場所は眺望が開けており、遠刈田温泉の街並みと蔵王火山を一望にすることができる。<br>刈田嶺神社から権現山を経て岩崎山金山跡のある遠刈田公園へ至る散策路が整備されており、温泉街の散策と合わせて手軽に森林浴と蔵王の眺望を楽しむことができる。 | | |
| ジオ要素 | ・遠刈田温泉北側の高台は遠刈田段丘面で、松川が造り出した平らな地形。権現山も岩崎山もいわゆる山ではなく段丘の張り出し部分に当たる（温泉街から見ると山に見える）。<br>・遠刈田温泉のある場所も平らな地形が広がる。これも松川が造り出した新しい段丘面。<br>・蔵王火山や七日原扇状地、眼下に温泉街を望むことができるため、ジオパークの概要を説明するポイントとして活用できる。<br>・権現山へ至る歩道には金鉱山の坑道跡が残る。遠刈田温泉発展の歴史と合わせて解説する。 | | |
| 話すポイント | ◆地形<br>対岸で七日原扇状地の先端を松川が削っている様子を見ることができる。<br>遠刈田温泉は松川が形成した平らな地形である河岸段丘面に立地している。<br>温泉街の北側の高台も平らな地形で、さらに古い河岸段丘面である。この段丘面の張り出しの部分は温泉街から見ると山のように見えたので、「権現山」「岩崎山」と呼んで景勝地にした。<br>◆神社<br>元禄8年に湯神神社、明治～昭和期に愛宕神社、古峯神社が建立された。遠刈田温泉の裏山にあたり、地元の人々の信仰の場として親しまれてきた。<br>◆植生・動物<br>権現山から岩崎山までの散策路周辺には落葉広葉樹林が広がり、森林浴と植物観察に良い。通常はこれより標高の高いところに多く成育するブナとイヌブナも見られる。また、オオルリやキビタキなどが見られ、野鳥観察にも良い。 | | |
| 注意すべき点 | ・遊歩道として整備されているが、やや急斜面を登る箇所があるので履物に注意する。<br>・坑道跡の横穴が開口している箇所があり見学できるが中に入らないよう注意する。<br>・季節によりヘビ・ハチなどに注意する。<br>・落葉期以外は眺望が制限され、手前の温泉街は見渡せないことがある。 | | |
| 施設、案内板等の整備状況 | ・遊歩道が整備され、展望できる広場がある。<br>・刈田嶺神社脇と遠刈田公園に遊歩道の案内看板がある。<br>・遊歩道の経路：刈田嶺神社～権現山～岩崎山～遠刈田公園～金山坑道跡。延長約1.5km、片道約60分（遠刈田公園～刈田嶺神社は麓の道路で約0.8km、約15分）。 | | |
| 疑　問　点 | ・実は山ではない？⇒ 段丘面の張り出し部分に「権現山」「岩崎山（籠山）」などの名前が付けられ、温泉街周辺の景勝地として親しまれてきた。<br>・遠刈田温泉がある場所と権現山一帯の北側の高台とは約70mもの落差があるが、この段差はどうしてできたのか。⇒ 蔵王火山の活動と松川のはたらき、段丘面の形成について整理が必要。<br>・高台の段丘面上には一部巨礫が見られる。これはどこから来たのか。⇒ 高台の堆積物が馬の背カルデラの崩壊、温泉街から鬼石原にかけての堆積物が五色岳東側の崩壊地と対応するという見解もある。一方、遠刈田には流れ山地形など山体崩壊を特徴付ける地形が見られない。詳細が未解明で、結論は出ていない。今後の火山防災上も重要な情報となるので、さらなる調査・研究が必要とされている。 | | |
| 提　　案 | ・比較的大きな礫が上端付近でも確認され、地形発達史について学術的な裏付けが必要。<br>・火山との距離関係や防災も含めて学習できるサイトになる可能性がある。<br>・遊歩道を歩くと勾配もありほど良い運動になるので、健康づくりや森林浴と合わせて気軽にジオに触れながら楽しんでもらうと良い。<br>・展望台の整備・眺望確保のための伐採などの検討が必要。<br>・遊歩道脇に横穴が開口しており、活用・保全・安全管理の観点での検討が必要。 | | |

マップ

------ 段丘崖（段差）

代表的な写真

刈田嶺神社付近から権現山を望む

古峯神社付近からの眺望

遠刈田公園へ至る遊歩道の案内看板

遠刈田公園へ至る遊歩道の入口

遠刈田温泉の発展を見守る
湯神神社

刈田嶺神社の前身である「金峰
山蔵王寺岳之坊」と刻む石碑

遊歩道脇にある横穴
（金鉱山の坑道跡？）

# 遠刈田ジオサイト ジオポイントカルテ

サイト番号：②－５

| | | | |
|---|---|---|---|
| 名　　称 | 岩崎山金山跡（籠山） | 所　在　地 | 蔵王町遠刈田温泉字遠刈田北山（遠刈田公園） |
| 管　理　者 | 蔵王町建設課 | 管理者連絡先 | TEL：0224-33-2214<br>FAX：0224-33-3297 |
| テ　ー　マ | 【遠刈田ジオサイト】山の暮らしと温泉―火山地形と高原の産業―<br>Ｄ．大地の恵みⅠ―温泉・水・鉱物― | | |
| サイトの説明 | 遠刈田温泉の北西にある岩崎山は金や銀、銅などを含んだ鉱山で、戦国時代末期には金の採掘が始まっていたとみられる。江戸初期には仙台藩主伊達政宗の支配下で採掘され、仙台城築城の資金になったとも伝えられている。その後、坑道に多量の出水があってやむなく閉山となり、政宗はこの事故で犠牲になった数十人の鉱夫を弔うため、坑道の奥に金の観音像を祀ったと伝えられている。<br>当時の採掘法は、鉱脈を手繰るように掘り進む「たぬき掘り」で、細い坑道が縦横無尽に巡り、岩肌の至るところに開口してカゴの目のようであったことから、「籠山」とも呼ばれた。遠刈田公園の一角にある岩崎山金山跡では、現在も坑道跡を見ることができる（「岩崎山金窟址」として町指定文化財に指定されている）。<br>明治時代には、武骨な岩肌と夜空の月の対比が美しいので「籠山の新月」として知られ、遠刈田温泉の名所の一つとなっていた。<br>刈田嶺神社から権現山を経て岩崎山金山跡のある遠刈田公園へ至る散策路が整備されており、温泉街の散策と合わせて手軽に森林浴と蔵王の眺望を楽しむことができる。 | | |
| ジオ要素 | ・金、銀、銅を含む鉱山で、蔵王火山形成以前、第三紀の火山活動で鉱床が形成された。<br>・金鉱脈は幾筋にも別れ、細い鉱脈をたどりながら掘り進めるたぬき掘りによって採掘された。その結果、山肌がかごの目のように見えたことから籠山と呼ばれるようになった。<br>・岩場が張り出しているので「岩崎山」、篭の目のように見えたので「籠山」と呼ばれた。地形や景観から生まれた地名。<br>・金鉱山の開発に伴って温泉が発見され、現在の遠刈田温泉の発展につながっている。<br>・坑道跡の入り口からは、夏でもひんやりと冷たい空気が流れ出ている。 | | |
| 話すポイント | ◆金の成因<br>金、銀、銅を含む鉱山で、蔵王火山形成以前、第三紀の火山活動で鉱床が形成された。<br>金鉱床の形成について「火山＋水＝金」の公式を示し、興味をもたせる。<br>◆伊達家との関わり<br>江戸時代初期には伊達政宗の支配下で採掘され、仙台城築城の資金となったと伝わる。<br>◆籠山観音<br>金山跡の犠牲者の慰霊のため伊達政宗が祀ったと伝わる。<br>大正時代に遠刈田地区の女性らによって観音講が始められ、近くに札所として観音堂が建てられた。<br>◆五輪堂<br>京の公家であった三条盛実の娘、お萬姫の乳母の墓碑とされる五輪塔がある。<br>岩崎山金山にまつわる炭焼き藤太と金売橘次の伝説が伝えられている。 | | |
| 注意すべき点 | ・地形や金鉱脈の形成、温泉の湧出など、ジオの観点での解説が必要。<br>・金山跡の崖がオーバーハングしており、安全対策や立入り範囲の明示が必要。<br>・五輪堂への経路は細道で分かりづらい。 | | |
| 施設、案内板等の整備状況 | ・遠刈田公園の一角にあり、駐車場、トイレが整備されている。<br>・駐車場は入口に傾斜があり大型バスの進入は難しい（遠刈田公民館隣の町営無料駐車場を利用）。<br>・言い伝えなどが記された看板が複数設置されている。<br>・坑道入口は封鎖されているが、亀裂の発達した岩盤がオーバーハングしており危険である。 | | |
| 疑　問　点 | ・なぜこの場所だけ岩場が露出しているのか？　金鉱脈のある地層はどこまで広がっている？<br>・五輪堂の中央にお祀りしてある石像について、賽ノ神信仰との関係はないのか。⇒ 五輪塔は古くからある墓碑の形態。遠刈田の五輪塔の由来は不詳。 | | |
| 提　　案 | ・かつて遠刈田温泉の景勝地とされた「籠山の新月」としての写真を撮影して活用してはどうか。<br>・松の木が多く繁茂し「籠山の新月」と呼ばれた当時の景観ではなくなっている。不要木を伐採して遠刈田公園内や県道から眺められるようにしてはどうか。松林で暗いイメージがあるので安全対策と合わせて改善が必要。 | | |

マップ

----- 段丘崖（段差）

代表的な写真

金山跡全景

ごつごつとした岩肌

岩盤に開けられた坑道の横穴

坑道の入口は安全のため封鎖されている

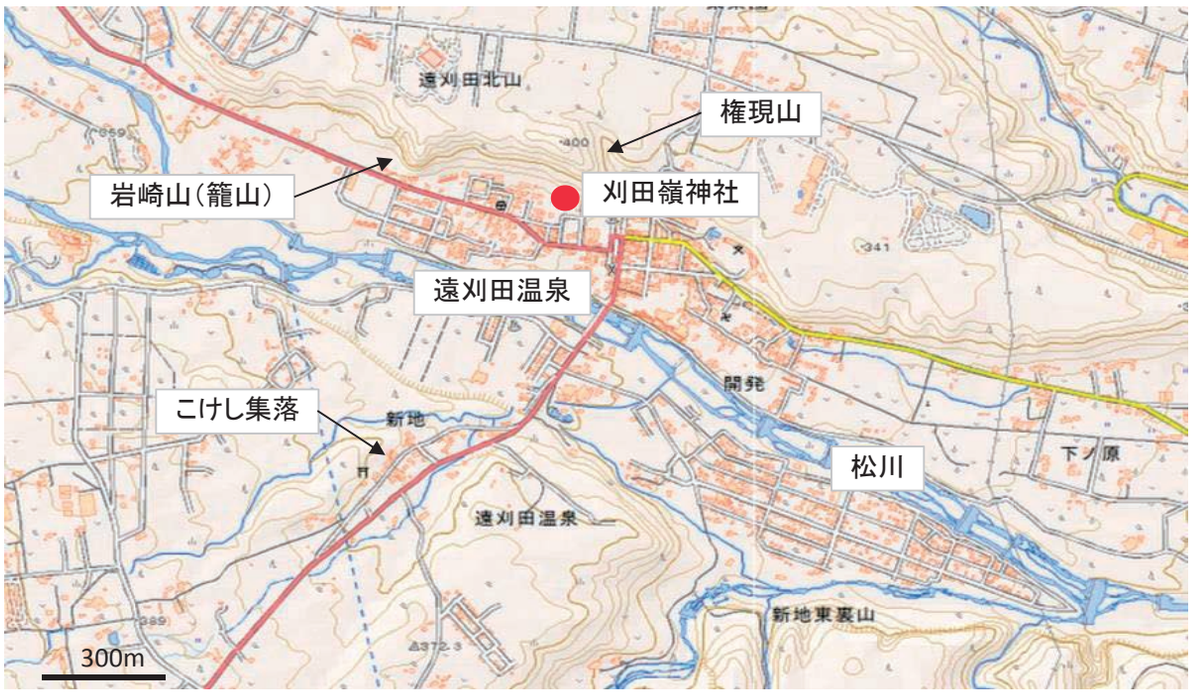
説明看板

# 遠刈田ジオサイト ジオポイントカルテ

サイト番号：②－６

| | | | |
|---|---|---|---|
| 名　　称 | 刈田嶺神社（蔵王大権現）里宮 | 所　在　地 | 蔵王町遠刈田温泉仲町１ |
| 管　理　者 | 刈田嶺神社 | 管理者連絡先 | TEL：0224-34-2620 |
| テ　ー　マ | 【遠刈田ジオサイト】山の暮らしと温泉―火山地形と高原の産業―<br>Ｇ．信仰と祈り | | |
| サイトの説明 | 蔵王山を修行の場として活動した修験寺院の嶽之坊（だけのぼう）を前身とする神社。江戸時代には金峯山蔵王寺（きんぷせんざおうじ）と号し、蔵王山頂に鎮座する蔵王大権現社を司った。また、山頂が雪に閉ざされる冬季の十月八日から翌四月八日までの間、御神体を安置する蔵王大権現御旅宮（おかりのみや）の役割も担った。このように蔵王寺嶽之坊と蔵王大権現社は古くから密接に関連していたので、明治初期の神仏分離令を契機に合一し、蔵王刈田嶺神社と改めて今日に至る。「刈田嶺」は、この地に蔵王大権現が請来されて蔵王山と呼ばれる以前の呼称である。蔵王山頂の刈田嶺神社奥宮と遠刈田温泉の刈田嶺神社里宮との間で行なわれる季節遷座の伝統は、現在も脈々と受け継がれている。<br>江戸時代の嶽之坊は蔵王参詣表口も司り、庶民の間で御山詣りが流行した江戸後期以降には多くの参詣者を山頂の蔵王大権現へと導いた。遠刈田温泉を出発して刈田岳山頂を目指す蔵王参詣は戦後まで続くブームとなり、遠刈田温泉の隆盛に大きな影響を与えた。刈田嶺神社拝殿内には、明治時代の蔵王参詣の様子を描いた絵馬「敬明講図」が安置され、当時の様子を伝えている。<br>平成26年には地元有志らによって蔵王古道が復元され「蔵王御山詣り」が催されている。 | | |
| ジオ要素 | ・蔵王火山を巡る信仰の歴史と山名の由来、遠刈田温泉の発展の歴史について知ることができる（火山噴火と畏れ、信仰、温泉と地域経済の発展）。<br>・境内の入口には源泉井戸から温泉が流れており、大地の恵みである「温泉」を実感できる。 | | |
| 話すポイント | ◆３つの刈田嶺神社<br>蔵王町内には、蔵王山頂、遠刈田地区、宮地区に３つの刈田嶺神社がある。季節遷座する蔵王山頂の刈田嶺神社（奥宮）と遠刈田温泉の刈田嶺神社（里宮）は平安時代に請来されたと伝わる修験道の本尊・蔵王大権現を祀る。宮地区の刈田嶺神社は古くは刈田嶺神（神山・刈田嶺）を祀り、山そのものを神とした古来からの信仰を伝えている。<br>◆名称の変遷<br>江戸時代には蔵王寺嶽之坊と称し蔵王大権現を祀ったが、神仏分離令により明治５年に水分神社（祭神：蔵王大神）、明治８年に刈田嶺神社（祭神：天之水分神・国之水分神）と称するようになった。<br>◆敬明講図（絵馬）<br>明治期の蔵王参詣の様子を描いた絵馬「敬明講図」が拝殿内に奉納されている。明治３８年に仙台の蔵王参詣講である宮城敬明講が奉納したもの。蔵王町指定文化財。<br>◆蔵王修験と蔵王参詣<br>平安時代に当地に請来されたと伝わる蔵王大権現を本尊とする願行寺系修験は末寺四十八坊を擁して発展したが、奥州藤原氏の滅亡を契機に衰退した。江戸時代後期に御山詣りが流行すると、わずかに存続していた願行寺系寺院の嶽之坊が蔵王参詣表口を担って出発地の遠刈田温泉とともに発展した。 | | |
| 注意すべき点 | ・ジオパークの中でのストーリー性を意識して、蔵王信仰の話だけに終わらせずジオとのつながりを持たせた話を工夫する。<br>・敬明講図は拝殿内に安置されており、見学する際は事前に神社へ申し出る必要がある。 | | |
| 施設、案内板等の整備状況 | ・町指定文化財「敬明講図」は拝殿内に安置。境内に写真入りの説明看板あり。<br>・参拝者用の駐車場は数台分。見学者は周辺の温泉街駐車場などを利用されたい。 | | |
| 疑　問　点 | ・蔵王の噴火に関連する資料はないか？⇒ 1694年（元禄7年）「刈田岳噴火　蔵王大権現宮殿焼く」<br>・江戸時代に続いた噴火が蔵王山の知名度を高め、蔵王参詣の隆盛に影響したのではないか？<br>・入口の鳥居に掲げられたプレートの石版はなぜ山の形をしているのか？ | | |
| 提　　案 | ・神社の記録などに噴火のことが伝わっていないか調査してはどうか？<br>・狛犬や社殿の細工など、神社の見どころについて共有できるように整理すべきである。 | | |

マップ




代表的な写真

刈田嶺神社

「蔵王大権現」の鳥居

蔵王参詣を描いた敬明講図
(明治時代に奉納された絵馬)

丸みのある狛犬

敬明講図の説明看板

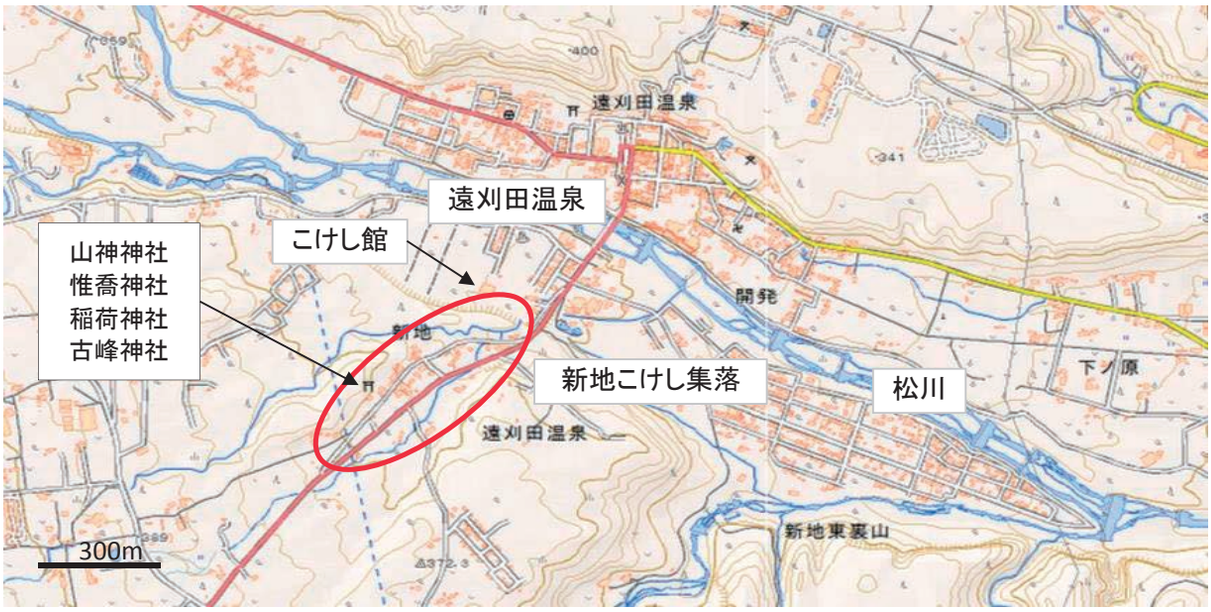
境内入口脇を流れる源泉

# 遠刈田ジオサイト ジオポイントカルテ

サイト番号：②－７

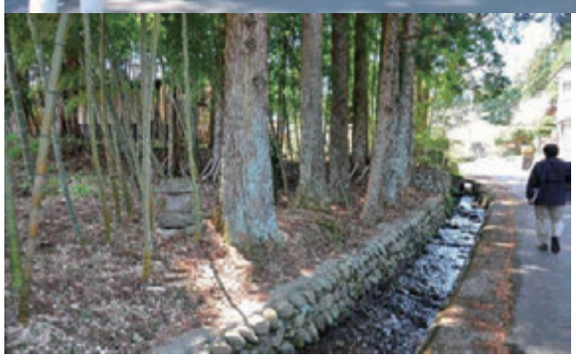
| | | | |
|---|---|---|---|
| 名　　称 | 新地こけし集落 | 所　在　地 | 蔵王町遠刈田温泉新地４３ |
| 管　理　者 | － | 管理者連絡先 | － |
| テ　ー　マ | 【遠刈田ジオサイト】山の暮らしと温泉―火山地形と高原の産業―<br>Ｈ．歴史と文化 | | |
| サイトの説明 | 遠刈田温泉に近い七日原扇状地の裾野にある新地地区はこけし工人集落で、「遠刈田こけし発祥の地」とも言われている。江戸時代中期の元禄14年（1701年）の記録には「新地と申す所に木地挽八人、年久しくまかりあり」とあり、古くから続く木地師集落であることが分かる。かつては山から木を伐り出して椀や皿、盆や杓子といった生活に密着した日用雑器を中心に作っていた人々で、戦国時代末期に伊達政宗が現在の福島県会津地方から七ヶ宿町周辺に移住させた木地師たちの末裔と言われている。昭和30年代にこけしが趣味の収集対象として注目されると、遠刈田温泉街で土産物として販売されたこけしと木地玩具が生産の中心となった。<br>蔵王山麓の豊かな森林を舞台に木地師たちが活躍した長い歴史の中でこけしが生み出され、現在もその伝統が脈々と受け継がれている。江戸時代後期以降の遠刈田温泉の発展に支えられながら土産品としての木地製品やこけしの生産・販売が発展した。明治期には東北木地業の先進地として発展し、弥治郎・蔵王・肘折・南部など各系統のこけしやその創始にも大きな影響を及ぼした。<br>新地地区には現在の多くのこけし工人が工房を連ねており、歴史ある集落を散策しながら工房めぐりを楽しむことができる。集落内には集落の人々が信仰する山神神社や惟喬神社があり、屋敷地にはこけしの仕上げ磨きに用いるトクサが繁茂している様子も見られる。 | | |
| ジオ要素 | ・森の恵みである豊かな森林資源を、自然の中で上手に活用してきた。<br>・下記の条件がそろったために木地師が集まり「こけし」が生まれた。<br>－扇状地などの緩斜面が広がり、利用しやすい地形であった。<br>－寒暖の差が大きく良質な木材を得られる（気象条件）。<br>－温泉地が近い（人々が集まり土産物の需要があった）。<br>・トクサやミズキの人工林など、こけし作りに必要な材料が生活の中で手に入る環境が作られている（大地の恵みを上手に活用してきた）。<br>・集落の外れにある神社など、山を大切にしながら利用してきた信仰の歴史。 | | |
| 話すポイント | ◆新地木地師の歴史<br>新地・弥治郎（白石市）の木地師は、湯原、稲子、後沢（現在の七ヶ宿町）からの移住と推定され、戦国時代末期に伊達政宗が現在の福島県会津地方から移住させた会津系木地師の末裔と考えられている。なお、新地の木地師について一説には、会津系木地師の移住以前から蔵王東麓で活動していた土着の木地師であるとも言われている。<br>◆集落内にある神社<br>山の神様を祀った山神神社、木地師の祖とされる惟喬親王を祀った惟喬神社、商売の神様を祀った稲荷神社、火災防火の神様を祀った古峰神社の社がある。集落の人々の信仰の中心は山神神社。仕事場である山の守り神であり、山の自然への感謝・畏敬が込められている。「山神講」の風習が今も息づく。なお、惟喬神社は各地の多くの木地集落と同様、明治時代後期に請来したもの。<br>◆地形<br>こけし館からの遊歩道沿いに見られる段差は、扇状地を松川が削ってできた段丘崖であり、そこを登ると緩やかな扇状地地形が広がる。集落西方の神社はさらに一段高いところにあり、急斜面の参道を登ると七日原扇状地によって埋まりきらなかった古い段丘面がある。<br>◆こけしに関連する植物<br>こけしの材料：落葉広葉樹のミズキ、こけしの仕上げ磨きに用いるヤスリ：トクサ | | |
| 注意すべき点 | ・こけし館からの導入など、ストーリー性をもたせた案内が必要である。<br>・新地のほかに鳴子、福島県土湯が「三大こけし発祥の地」と言われている。<br>・集落入口にある「木地発祥の地」の表現は誤りである（「伝統こけし発祥の地」であれば可）<br>・集落内の散策・見学では住民の生活空間でもあることに留意し迷惑にならないよう注意する。 | | |
| 施設、案内板等の整備状況 | ・集落入口の道路沿いに案内看板や位置図が整備されている。<br>・数軒のこけし製造販売所がある。<br>・こけし館脇から森林の中を抜けて集落へ続く遊歩道がある（遊歩道の案内看板もあるが、入口が分かりづらい）。 | | |
| 疑　問　点 | ・集落内を流れる小川はろくろの動力に使ったのか？ ⇒ 使われたことはない。<br>・水路の水は扇状地の湧水なのか？ ⇒ 扇状地の湧水である。<br>・神社の向きが蔵王を向いているのでは？ ⇒ 生活や生業の場としての山への信仰。 | | |
| 提　　案 | ・こけし工人の方々とも連携をはかり、地元に経済効果をもたらす仕組みを検討すると良い。<br>・こけし工人の方々に取材をすると、もっと生活や景色と密着した関係が見えるのではないか。<br>（現在も続く信仰や風習、過去の歴史なども調べられると面白い）。<br>・ミズキ人工林やトクサが植えられている場所に説明表示物があると良い。<br>・「こけし集落」と「こけしの里」どちらかに統一した方が良いのではないか。<br>・集落内の散策や宅地内の植物を観察するにあたり、住民の同意が必要ではないか？ | | |

マップ




代表的な写真

こけし館脇から集落へ続く遊歩道
「こけしの道」が整備されている



新地こけし集落

光沢を出す磨き上げ用の
ヤスリとして使用した
「トクサ」が群生する

集落内の高台にある神社には
山神など四柱の神様を祀る

神社の入口に建てられた
「山神」などの石碑群

# 遠刈田ジオサイト ジオポイントカルテ

サイト番号：②－８

| | | | |
|---|---|---|---|
| 名　　称 | みやぎ蔵王こけし館 | 所　在　地 | 蔵王町遠刈田温泉字新地西裏山36-135 |
| 管　理　者 | 蔵王町観光物産協会<br>（指定管理者、所管:蔵王町農林観光課） | 管理者連絡先 | TEL：0224-34-2725<br>FAX：0224-34-2772 |
| テ　ー　マ | 【遠刈田ジオサイト】山の暮らしと温泉―火山地形と高原の産業―<br>Ｈ．歴史と文化 | | |
| サイトの説明 | 全国に愛好者を持つ東北地方のこけし。そのなかでも遠刈田温泉に近い新地こけし集落は「こけしの発祥の地」とも言われている。こけしの始まりは木地師が子ども向けの玩具として製作したものとされ、戦後に伝統工芸品として紹介されたことにより収集・観賞の対象として全国的な注目が集まった。土産物を買い求める湯治客で賑わう遠刈田温泉に近いことや、こけしを含む木地生産に適した木材を生み出す蔵王山麓の豊富な森林資源が、この地にこけしを根付かせた。<br>みやぎ蔵王こけし館（蔵王町伝統産業会館）は、新地こけし集落を背にして蔵王山や遠刈田温泉を間近に望む松川の河畔に昭和59年5月に開館した。伝統技術の保存と後継者の育成、ならびに「宮城伝統こけし」を広く紹介することを目的に設立された。館内の工房で工人の作業を見学したり、こけしの絵付け体験などができ、伝統工芸品のこけしを身近に感じさせてくれる。<br><br>※木地師：ロクロを用いて木製の日用雑器などを製作する工人。 | | |
| ジオ要素 | ・新地の木地師は古くから豊かな森林資源を活用して生活用品や子ども向けの玩具を製作してきた。<br>・宮城県内で製作されるこけしには大きく鳴子系・弥治郎系・作並系・肘折系・遠刈田系の５つの系統があり、遠刈田新地は「こけし発祥の地」として知られている。<br>・温泉地に近い立地から、土産物として「こけし」が人気を博し、人びとに愛されてきた。<br>⇒ジオの恵み（森林資源と温泉）が「こけし」の誕生と発展に影響した。<br>・木地の材料に適した樹木（まっすぐに伸び、適当な硬さである）が良く育つ環境であった。<br>・円田盆地の十郎田遺跡では鎌倉時代の木器づくりの跡が発見されており、蔵王山麓が古くから木地生産に適した環境であったことが分かる。 | | |
| 話すポイント | ◆新地木地師の歴史<br>新地・弥治郎（白石市）の木地師は、湯原、稲子、後沢（現在の七ヶ宿町）からの移住と推定され、戦国時代末期に伊達政宗が現在の福島県会津地方から移住させた会津系木地師の末裔と考えられている。なお、新地の木地師について一説には、会津系木地師の移住以前から蔵王東麓で活動していた土着の木地師であるとも言われている。<br>◆こけしの誕生<br>子どもの玩具として、江戸時代後期には製作が始まったと言われている。<br>◆こけしの材料<br>現在は主にミズキを利用。成長が早くまっすぐに伸び、白い木肌で加工しやすい。 | | |
| 注意すべき点 | ・展示はこけしの美術・歴史的な内容が中心なので、ジオ関係の内容（なぜ木地師が移り住んだのか、森林資源をどう利用したのかなど）についても触れるようにすると良い。<br>・木材資源が再生可能な資源であり、木地師たちは森林を保全しながら上手に利用してきたことも強調する（資源や環境の保全はジオパークでも重要なポイント）。 | | |
| 施設、案内板等の整備状況 | ・県道白石上山線沿いに案内看板が設置されており、アクセスが良い。<br>・駐車場は広く大型バスも駐車可能、館内にトイレが整備。<br>・館内の工房で工人によるこけし製作の見学や体験ができる。こけしや関連商品を展示販売。<br>・案内者（ガイド）による展示の説明があると、内容の理解が飛躍的に向上する。 | | |
| 疑　問　点 | ・一番古いこけしは、いつ頃のものなのか？ ⇒ 幕末～明治期とされるものがある。<br>・顔料やその他の材料でジオに関連するものがないか。 | | |
| 提　　案 | ・展示の内容にジオ関係の内容も充実させると良い。<br>・新地の木地師集落より早くから蔵王山麓で職人の手による木地製作が行なわれていたことを示す十郎田遺跡出土の木製品を、こけし館に展示できると良い。<br>・こけし館内にジオパーク常設展を設置し、蔵王ジオパークの拠点としてはどうか。<br>・「ざおうさま」のこけしが人気とのことで、ジオとの関係を理解できる商品開発や、コマ、だるま落としの「ざおうさま」バージョンなど、バリエーションの工夫も協働できると良い。<br>・新地木地師の遊びだった「ドンコロ回し」の展示と説明をしても良い。<br>・昔遊び（コマ回し、お手玉、おはじき等）のできる場所があると面白い。<br>・こけし館前のフリースペースや裏庭は、有効活用できるのではないか。 | | |

マップ

代表的な写真

こけし館の外観

広い駐車場とフリースペース

売店にはこけしや
木製玩具など

館内の展示

「ざおうさまこけし」
（ざおうさまとジオとの
コラボで新たに
商品開発できないか？）